

テレビで社会を動かす

「時男さん・60歳からの青春」が
まきおこしたもの

NHKディレクター 鹿島 真人

mkashi25@gmail.com

2020. 5. 18

国際医療福祉大学

自己紹介

- 1983年生まれ、36歳
- 東京都練馬区育ち
- 赴任局 大分 → 東京 → 長野

〈今まで作った番組〉

「ハートネットTV」「クローズアップ現代」「ETV特集」
「日本人のおなまえっ」
「世界はほしいモノにあふれてる」「知恵泉」「NHKス
ペシャル」「地球イチバン」

<今日の言いたいこと>

当事者の物語が
世の中を変える

番組を見る

- ハートネットTV 2014年6月10日放送
「60歳からの青春～精神科入院40年をへて」



時男さん(1951年生まれ)

- 福島県生まれ
- 高校卒業後、上京
- 16歳のとき、統合失調症を発症
- 40年間、精神科病院に入院
(社会的入院)
- 東日本大震災で病院が被災
- 2度の転院を経て、
医師から退院を提案され
61歳で退院
グループホームで暮らし始める
- 63歳で1人暮らし開始

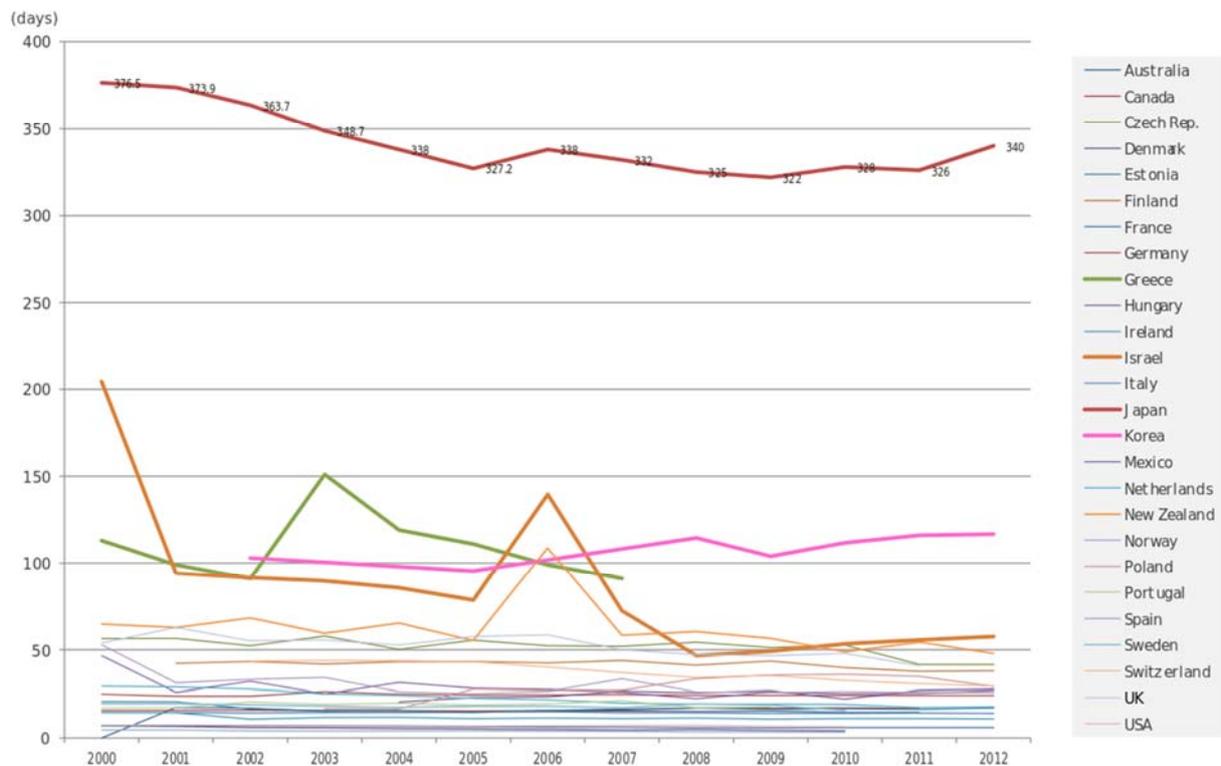


「社会的入院」とは

- 入院治療の必要がないにもかかわらず、
出先がないなどの理由によって、
長期間、入院せざるをえない状態
- 精神科の社会的入院患者約7万人(2004年推計)
→「受入条件が整えば退院可能な者
約7万人について10年後の解消を図る」
- 実際02～14年に減少した病床は1万8千床のみ

精神科病床における平均在院日数の国際比較

Hospital averagelength of stay by diagnostic categories
Mental and behavioural disorders, (OECD Stat. and MHLW)



精神障害者の戦前・戦後

- 座敷牢(私宅監置)
→精神衛生法(1950)で禁止
- 精神科特例(1958)精神科は他の診療科と比べて3分の1の医師、3分の2の看護者で運用
- 私立精神科病院の急増(1950-60年代)
- ライシャワー駐日アメリカ大使刺傷事件(1964)
「精神異常者を野放しにするな」
- 宇都宮病院事件(1984)→精神保健法(1987)

時男さん物語 & 戦後精神医療

- 高度経済成長期に上京「金の卵」
- ライシャワー事件のころに発病・入院
- 郊外に数多く建てられた私立精神科病院
- いつのまにか「社会的入院」状態
- 「作業療法」全盛期
- 宇都宮病院事件ののち、社会復帰促進に転換
グループホームなどの誕生
→しかしホスピタリゼーション
(退院したくない心境)

物語をつむぐヒント①

“鳥の目” と “虫の目” を意識する

- ・時代の「流れ」「出来事」 (鳥の目)
- ・象徴的な物語のある「当事者」 (虫の目)
- ・かくされた「不条理」「怒り」 (心づもり)
→他者の価値観を変えうる説得力

鳥の目を養うには「お勉強」しかない

- ①キーワードで出た最近の本・記事を全て読む
- ②業界の見取り図を書いてみる
- ③第一線の専門家(現場がある人)に会いに行く

時男さんとの出会い

- 2014年、震災後の南相馬市の仮設住宅のメンタルの問題を取材
- 上司の助言「精神科入院患者の行方は？」
- ジャーナリスト織田淳太郎さんの本に行きつく
- 織田さんと面会
- 「来週弟に会う」
- すぐに撮影開始



物語をつむぐヒント②

“仮説”をもとに物語を探す

- 双葉病院の搬送時に患者44名死亡
→「入院患者はどこへ？その後は？」
- 漂流する入院者を追うことで
入院生活や、暮らしはどうかなど被災者目線
- 災害や大事件＝既存の枠組みの瓦解
→社会システムが可視化される機会
- 時男さんの登場＝「地域」で暮らす意味
- 調べていくと想像をはるかに超える現実にあたることもある

言葉を持つ当事者に出会うのは ほぼ奇跡

- 時男さんは、長年の入院にもかかわらず
持ち前の好奇心で人生をあきらめなかった
- 趣味：絵画、詩、新聞の俳句投稿
- 時男さんの前向き生き方
→番組の方向性
「60歳からの青春」



同時に巻き起こっていた議論

- 2013年精神保健福祉法の改正「精神障害者の医療の提供を確保するための指針」策定
- 厚生労働省による長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策に係る検討会（2014年3月28日～2014年7月14日）
- 「精神科病床転換型居住系施設」（＝敷地内退院）
- 当事者団体から「病院は地域ではない」「地域移行の言い訳を作るな」と反対の声

番組を見る

クローズアップ現代 2014年7月26日放送
「精神科病床が住居に？長期入院は減らせるか」



物語をつむぐヒント③

“絶好の機会”をのがさない

- ・「検討会にぶつけるべき」と上司判断
→すぐに放送
- ・実際に検討会でも「“地域で暮らす”とは
どういうことか」の実例として何度も議論
- ・当事者の声を上げる大会の開催
日比谷公園に精神・身体・知的さまざまな当事者など
三千二百人が一堂に集まり精神科病床転換型施設へ
反対の声を上げる歴史的大会
- ・その模様も入れたクローズアップ現代は
視聴率13.9%(シーズン2位)

機をつかむには

- 何事も取材。特に直接会って関係を作ると法改正や条例発表前に「情報」を教えてもらえることも
(取材はあちこちに畑を持つ農作人のよう)
- 仲間を作る
- 「〇〇から何年」「生誕／没後〇年」節目の年

声を拾うには

- あなたも発信者になれる
- 当事者の「隣」にいる人の重要性
- 「家族会」「当事者会」会報・手記などを探す
- 〇〇×△△という組み合わせをずらしてみる
- 第一線の人に会いに行く
(専門家・行政ではなく“民間”のひとがいい)

隣人の声の拾い方のヒント

- アメリカのNPOストーリーコア (StoryCorps)
当事者の家族や友人などがインタビュアーとなり、その人の人生の話を聞き出し、その録音を記念に持ち帰ることができるサービスを提供
→ 良いものは国営ラジオで放送やYouTubeで公開
→ 911テロミュージアムに体験談として常設展示



たとえば

- バイクの交通事故から立ち直って妻に感謝しているおじさんのストーリー
- 家庭が崩壊している子どもが出会った先生に感謝しているストーリー
- 余命いくばくもないおじいさんが息子と語り合っているストーリー
- 離婚して親友になった二人のストーリー



プレスリリースの書き方

①キャッチさ

ユニーク、新しさ、目を引く点は？

②今それが重要な意味

その出来事や取り組みに
今この時代だからこその重要性は何か？
社会的・時代的な意味は？

③ストーリーのある現場・当事者

具体的にどんな心を動かす物語があるか

※でも最後は人間力

まだまだ複雑怪奇な精神医療

- 依然として多い病床数
- 暴行事件
- 身体拘束
- 多剤大量処方
- 処方薬依存
- 社会の偏見 本当にインクルーシブか？

最後に宣伝

<執筆者>

こども食堂KAKECOMI 鴻巣麻里香

株式会社アイム 佐藤典雅

LGBT成人式@埼玉実行委員長 松川莉奈

認定NPO法人Homedoor理事長 川口加奈

一般社団法人ホワイトハンズ 坂爪真吾

埼玉障害者市民ネットワーク 野島久美子

新井利民

衆議院議員 池田真紀

生活保護費引き下げ訴訟の原告 橋本真希子

毎日新聞記者 山寺 香

株式会社TBSスパークルアナウンサー 岸田彩加

NHKディレクター 鹿島真人

武蔵野大学教授 渡辺裕一

弁護士 山田恵太

ブランドコンサルタント 福田 淳

武蔵野大学准教授(木下大生)

